平成21年度　学校評価総括表(その1)

奈良県立生駒高等学校

教育目標	自立した社会人の育成を目指して、「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性を育み、心身を鍛えることによって一人ひとりが高い志をもって各自の目標達成に向けていきいきと行動できる生徒を育てる。		総合評価
運営方針	・3年間の指導を見通して各学年の目標実現に取り組むとともに学年・分掌間の連携を強める。 ・「自信」と「勇気」を身に付け、自己と他者を生かす生徒を育てる。 ・学力向上に努め、基礎基本の徹底とそれを発展、活用できる力の育成を目指した授業を展開する。		
平成20年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
昨年度は生徒アンケートによる授業満足度や高校生活の充実度等に少しずつ向上が見られ、また体験活動を中心とした地域との連携にも一定の成果が上がったと考えられるが、学習への意欲喚起や進路目標の確立、生徒会活動等への自主的な取組等、課題も残っている。今年度は文科省指定の英語教育推進事業が始まる。これも1つの契機として魅力つくりのレベルアップを図りたい。	学校を活性化し、魅力をアップする教育の展開に努める。	・英語教育指定研究の推進　・「関心」と「意欲」を引き出す授業展開のための工夫と改善　・校内研究授業の活性化 ・教員の資質向上を図る研修の充実	B
	学習習慣と基本的生活習慣を身に付け、主体的に行動できる生徒を育てる。	・家庭学習の充実　・部活動指導と学習指導との連携　・遅刻の減少　・ルールの遵守とマナーの向上　・安全教育や食育の推進	
	将来の目標を定め、それを実現できる力を持った生徒を育てる。	・教育課程の改革　・進路指導の充実　・キャリア教育の推進　・総合的な学習の時間の効果的な活用	
	心身とも健全で、忍耐力と集中力を身に付けた生徒を育てる。	・地域と連携した体験活動の充実　・部活動の奨励とその効果的な指導の工夫　・人権意識の向上　・学校行事や生徒会活動の活性化	
	学校の組織力を強化し、一人ひとりの生徒に適切に対応できる体制を整える。	・積極的な情報の収集と発信　・家庭や地域との密接な連携　・教育相談の充実(特別支援を要する生徒への取組)　・危機管理体制の構築	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月) 自己評価	中間期(9月) 進捗状況	年度末(3月) 自己評価			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第1学年	規範意識と基本的な生活習慣を確立する。	中学校との違いを認識させ、服装の乱れ・頭髪違反などを見逃さずにねばり強く指導を続け、遅刻や欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。	遅刻の各クラス別年間総数の平均　50回未満A　70回未満B　90回未満C　90回以上D	B	1学期(63日)の遅刻の学年合計は108回、1クラス平均13.5回であった。	B		B	1，2学期(139日)の遅刻の学年合計は285回、1クラス平均35,6回である。1学期に比較し、全体的に増加傾向がみられた。	規則正しい生活習慣の確立を促すとともに、遅刻の個別指導を行った生徒に改善がみられたので、今後も続けていきたい。	生徒や保護者が、生駒高校に何を求めて入学してきているのか。部活動なのか、進路実現なのか、楽しさなのか等を十分把握した上で、教育活動を展開する必要がある。
	基礎学力を充実させ、学校生活を意欲的に過ごす姿勢を育てる。	学習と部活動の両立を目指し、意欲的に努力する生徒を多く育てる。	部活動の加入率　70%以上A　65%以上B　60%以上C　60%未満D	A	部活動の加入率は77.2%である。	A	C		10月末の部活動の加入率は約79%である。部を退部し、別の部に入部した生徒、途中から入部した生徒も含まれる。	充実した経験をできるだけ多く体験させたい、今後も課外活動への参加を呼びかける。	
		基礎学力の充実を図るため、家庭学習の習慣を身につけさせ、密度の濃い授業を展開する。	学力が向上していると思っている生徒が 70%以上A　60%以上B 50%以上C　50%未満D	D	向上していると思っている生徒は38.4%に過ぎず、生徒自身が努力不足を感じている。	C			向上していると考えている生徒は1学期に比較し53.1%に増加した。まだ半数近くの生徒が学習の効果を実感できていない。(10月末)	学習に積極的に取り組もうとしている生徒と、学習が他人事で自立できていない生徒の差が拡大している。「学ぶ」意味について授業はもちろん、ホームルームや総合学習の時間を有効活用し、社会の現実や大人たちの思いを伝えていきたい。	
			平日の平均家庭学習時間が2時間以上A 1．5時間以上B　1時間以上C　1時間未満D	D	平均約45分であり、現実に学習時間が不足していることがわかる。	D			ほとんど学習しないと答えた者が61人から85人に増加し、約40分という結果になった。学習意欲の低さが課題である。(10月末)		
	自分の将来について考える姿勢を養う。	自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標を持たせる。	総合学習やLHRの時間を活用し、第1学年の間に進路目標が定まった者が　70%以上A　60%以上B　50%以上C　50%未満D	B	類型選択に関する調査で「未定」と解答した生徒が約10%強である。	A			1月の希望調査で「未定」「複数迷っている」旨の回答をした生徒が約10%弱いた。「大学進学」「専門学校進学」といった大まかな希望でとどまっている生徒も多い。	具体的な学部、学科や学校名まで考えられるように、ホームルームや総合学習の時間を用いて、情報をより発信する。	
第2学年	基本的な生活習慣を確立させる。	保護者や関係機関との連携を図り、服装・頭髪・言葉遣いの乱れなどを見逃さず、粘り強く指導を続け、遅刻・欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。特に不注意や寝坊を原因とする遅刻の減少を目標に指導する。	遅刻の各クラス別年間総数の平均　50回未満A　70回未満B　90回未満C　90回以上D	C	1学期(64日)の遅刻の学年合計は196回、1クラス平均24.5回であった。	A	B	B	1,2学期(140日)の遅刻の学年合計は378回、1クラス平均47，3回である。1学期と比較し学級閉鎖の影響もあり、数値としては増加を食い止めることができた。	遅刻をする者は固定化してきているので、個々の指導を強化し、保護者とも連携をとりながら、遅刻防止に努めたい。	学習時間が少ないのが気になる。成績分布表を提示して、自分が集団の中のどの位置にいるのかを常に意識させるのが、刺激になり、よいのではないか。
		部活動の加入率70%以上の維持を目標とし、卒業まで学業と部活動の両立が図れるように支援をする。	70%以上A　65%以上B　60%以上C　60%未満D	B	部活動の加入率は約70%である。	B			2学期末の部活動の加入率は約68%である。両立の努力をせず、安易に退部を選ぶ生徒が見受けられる。	部活動顧問と担任との連携をはかりながら、両立をめざす強い姿勢を身に付けさせるとともに、退部した者が新たな目標をもてるように声かけをしていく。	
	学力を向上させ、充実した学校生活を送らせる。	基礎学力の充実と、自主的に発展的な内容にも取り組む姿勢を育てるため授業改善を行い、家庭学習を習慣化させる。	学力が向上していると思っている生徒が 70%以上A　60%以上B 50%以上C　50%未満D	C	向上していると思っている生徒は51.7%に過ぎず、生徒自身が努力不足を感じている。	C	C		向上していると思っている生徒は51%で1学期とほぼ変わらぬ状態である。努力不足は感じているが、前向きに努力する姿勢をもてないまま学校生活を送っている生徒が多い。	最終学年に向かう自覚を持たせ、進路目標を強固なものとさせ、各自が努力を続ける中で学習時間の確保の必要性を認識し学力が向上しているという実感を得られるように取り組ませる。	
			平日の平均家庭学習時間が3時間以上A　2時間以上B　1時間以上C　1時間未満D	D	平均約45分であり、学習時間が極度に不足していることがわかる。	C			平均1時間15分と、1学期末より増加したものの、2年終わりの時期の家庭学習時間としては不十分すぎる。		
	将来を見つめ、目標達成のために努力させる。	進路目標、部活動目標など、目的意識を持たせ、自己実現に向けて地道に努力させる。生徒とともに保護者にも進路について興味・関心を持ち、理解を深めてもらうため「学年通信」などを通じ、進路情報の発信に努める。	各学期に1回以上配布A 年間に3回以上配布B 年間に2回以上配布C 年間に1回以下D	C	1学期に2回配布した。	A	A		1・2学期各2回発行した。生徒だけでなく保護者に対しても学校の行事や進路情報を届けることができた。	保護者も学校からの進路情報の提供を強く求めている実態があるので、引き続き学年通信などを通し、情報を発信し、生徒たちの目標達成を保護者とともに支援していきたい。	

平成21年度　学校評価総括表(その2)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標 （評価小目標）	具体的方策	評価指標	中間期（9月） 自己評価	中間期（9月） 進捗状況	年度末（3月） 自己評価			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析） 及び改善方策
第3学年	基本的な生活習慣を確立させ、充実した学校生活を送らせる。	保護者や関係機関との連携を図り、服装・頭髪・言葉遣いの乱れなどを見逃さず、粘り強く指導を続け、遅刻・欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。特に遅刻については回数に応じて指導を強化し、不注意や寝坊を原因とする遅刻の減少を目標に指導する。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 50回未満A　70回未満B 90回未満C　90回以上D	C	通院等も含めて、1学期の遅刻の学年合計は346回、1クラス平均43.25回であった。	D		B	年間の遅刻総数が学年全体(309名)で1000回を超え、大きな課題を残した。	・進路に関わり、学習時間が増え、生活が夜型に進む傾向があった。そのため朝起きがスムーズに行えず寝過ごすことが見うけられた。 ・学習塾で帰宅が遅くなる傾向があった。 ・受験と関連させ、入試日の関係から朝型の学習への転換を促す工夫が必要であると思われる。	進路実現に向けてできるだけ早く始動させることが重要である。卒業生は様々な分野で活躍しており、卒業生に講演をさせるのも、一つのきっかけになるのではないか。
	積極的に学習に取り組む姿勢を持たせ、部活動との両立を目指させる。	自らの適性や興味・関心を見つめ、進路実現に向けて前向きに努力する姿勢を育成するため、ホームルームにおいて担任・副担任が日常的に生徒に語りかけるとともに、学年集会やHRを実施し意識の向上を図る。	学年集会を 各学期に2回以上実施A 年間に4回以上実施B 年間に3回以上実施C それ以下D	B	4月、7月、8月に実施。	A			12月および1月に実施。卒業に向けて、2月にも実施する予定である。		
	自己に厳しく、目標達成のために最大限の努力をさせ、各自の進路希望を実現させる。	基礎学力の充実と、発展的な内容にも取り組む態度を育てるため積極的に授業改善を行うともに家庭学習を習慣化させる。また、放課後、長期休業中に開かれる進路補習講座への積極的な参加を促し、実力の養成をはかる。	学力が向上していると思っている生徒が 70%以上A　60%以上B 50%以上C　50%未満D	C	6月29日実施の生徒アンケートにて、53.6%であった。	A	B		12月9日実施のアンケートにて、学力が向上していると思っていると、73%以上の生徒が回答した。		
			平日の平均家庭学習時間が 4時間以上A　3時間以上B 2時間以上C　2時間未満D	D	6月29日実施の生徒アンケートにて、2時間弱であった。	C			12月9日実施の生徒アンケートにて、単純平均、中央値が2時間～3時間のところであった。	・進路決定後の学習に対する取り組みが維持できない生徒への対応が必要であると思われる。	
		「学年だより」を配布するなど、啓発に努め進路目標、部活動目標など、目的意識を持たせ、自己実現に向けて地道に努力させる。	「学年だより」を 各学期に1回以上配布A 年間に3回以上配布B 年間に2回以上配布C それ以下D	C	1学期に2号まで配布	A			各学期に1回以上、 年間で5回配布でき、生徒への啓発がはかれた。		
総務	学校説明会、中学校訪問、学校見学受け入れ等円滑に対処する。	教頭、教務部や教育情報部と連携し、出版物の内容やホームページを充実し、中学生・保護者に高校の方針等を理解してもらう。	アンケートを実施し、たいへんよく理解できたA 理解できたB　普通C　あまり理解できなかったD	A	生徒700名、保護者180名引率10名が参加し、無事終了。保護者および生徒の感想は、学校の方針、教育内容がよく理解でき、入学させたい、したい思いがますます募った。	A		B	生徒700名、保護者180名引率10名が参加し、無事終了。保護者および生徒の感想は、学校の方針、教育内容がよく理解でき、入学させたい、したい思いがますます募った。	学校行事としてとらえ、全校体制で実施することが必要である。	育友会活動が活発で、広報誌「けんゆう」の発行等、すばらしい活動を展開している。
	入学式･卒業式をはじめ全校朝会等厳粛で実りあるものにする。	当該分掌と連携を密にし、よりすばらしいものにする。	実施率　90%以上A　80%以上B　70%以上C　60%未満D		順調に実施中	B			・入学式･卒業式をはじめ全校朝会等厳粛で実りあるものにすることができた。 ・ホームページ掲載は昨年より少し増。	全職員に定期的に呼びかけていく。	
	育友会、樫葉会、樫木会活動を活発化させる。	ホームページ、育友会広報誌「けんゆう」等を通じて情報発信をする。	ホームページ掲載の量・質昨年度より大幅増A　増B　同程度C　減少D。総会への参加人数昨年度より大幅増A　増B　同程度C　減少D。		順調に実施中	B			育友会、樫葉会、樫木会活動は昨年とほぼ同様の活動ができた。	更なる活性化に取り組む。	
学習指導	各教科で基礎学力の充実に努めると共に発展的な学習にも目を向けさせ、確かな学力の養成に努める。	英単テストを、基礎学力定着の要と捉え徹底的に取り組ませ、合格率の向上を図る。	合格率　80%以上A　60%以上B　40%以上C　40%未満D	B	学年により、内容が異なるが、約70%である。	B		B	学年により、内容が異なるが、約68%である。	生徒の学習意欲を刺激し、学力のより一層の定着を図る。	様々な取り組みを実践し、全体として、バランスのよい教育活動を展開している。 授業アンケート結果を細かく分析し、より成果が上がり、生徒の満足度が高い授業の実現に向けて、授業改善に取り組むことが大切である。
		各教科で年に1度は公開授業（研究授業）を実施して、研修会を持つ。	研修会の実施率　80%以上A　60%以上B　40%以上C　40%未満D	B	9月までの実施予定教科（地歴・公民、理科、芸・家・情、英語）のうち3教科で実施済み	A			すべての教科で実施することができた。（予定）	教科間の連携を図ることができないか模索していく。	
		学期毎に、生徒による授業評価を取り入れる。	授業に満足している生徒が 80%以上A　70%以上B 60%以上C　60%未満D	B	第1学期授業アンケートにおいて、70%以上の生徒が、授業に満足している。	B			第2学期授業アンケートにおいて、70%以上の生徒が、授業に満足している。	授業研究を更に進めていく。	
教務	個々の生徒が目指す進路目標に応じた多様な教育課程を編成する。	教育課程表提出の11月までに、教育課程検討委員会を効果的に開催する。	開催回数　4回以上A　3回B　2回C　1回以下D	A	教育課程検討委員会は2回のみの実施であるが、それを補完するものとして、学習推進委員会を4回実施した。	A		B	学修推進委員会がうまく機能した。	さらに、学年会議、各種委員会等との有機的な連携を図る。	
		次期教育課程研究のため、教務部員は関連した研究集会等に各人年1回以上参加する。	参加率　80%以上A　60%以上B　40%以上C　40%未満D	C	教務部員9名中5名が、教科の研究集会や新教育課程説明会に参加した。	C			部員の間の教科の重なりによって、本年度はこれで精一杯であった。人数比ではなく、延べ回数と部員数との比で考えれば本年度でもAになる。また、本年度は次期教育課程より、現在の教育課程の見直しの方が優先されるべき課題であった。	現在の教育課程が大体落ち着いたので、次期教育課程の研究を進めていく。そのために、関連する研究集会等が開催されたときは、高い志を持って、さらなる参加を目指す。	

平成21年度　学校評価総括表(その3)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標 （評価小目標）	具体的方策	評価指標	中間期（9月）		年度末（3月）					
				自己評価	進捗状況	自己評価			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	通学路マナー、挨拶の励行推進を生活委員活動として実施する。	8回以上A　6回以上B　同程度C　4回以下D	C	1学期に1回実施。2学期にも実施を計画している。	C	B	B	新型インフルエンザの影響で計画の変更があったが、実施したときの生徒の反応は、教員がやるよりも活気があった。	生活委員だけではなくて、部活動生やボランティアも含めて奨励する。	学校のイメージは、服装、通学マナー、挨拶等に影響される。生駒高校のイメージは、全般的に良いが、通学鞄を電車の通路に置く姿など、一部、通学マナーに問題が見られる。
		校外指導を充実させ、電車内、ターミナル指導を実施する。	6回以上A　5回B　4回C　3回以下D	B	1学期に駅構内と車内での様子を、巡視指導した。特に、定期考査期間の指導を充実させた。	A			計画どおり実施できた。生徒達がきずかない中で、迷惑行為にいたっていることがある。車内でのマナー等で注意をいただいた。	規範意識をより徹底させる。　学校生活全般において指導の充実をはかる。	
		不注意、寝坊等での遅刻回数の減少を図る。	前年比　10%以上減A　5%以上減B　同程度C　5%以上増D	B	毎朝、校門で遅刻者の確認をしている。	B			早朝指導の警告をすることで、抑制になっている。学期に5回以上の生徒が減少した。	時間に余裕をもった行動を家庭とも連携して習慣づける。	
	教職員共通理解の下に生徒指導を行う。	携帯電話の使用ルール違反における特別指導数を減少する。	前年比　30%以上減A　20%以上減B　10%以上減C　同程度D	C	1学期の指導数、1年8名・　2年2名・3年5名である。	A			2学期以降の指導数が減少した。しかし、注意をしているが電源の切り忘れや設定の誤りで着信やアラームによる指導がある。	電源OFFを確認させる。 ルール・マナーを意識させるように指導する。	
	家庭や地域、関係諸機関との連携を強化する。	休業中の生徒心得や保護者宛文書を通じて啓発する。また、育友会生活部の活動を通して連携を図る。	生徒心得及び保護者宛文書発行　6回以上A　5回B　4回C　3回以下D	B	春期、夏期休業及び5月の連休中の諸注意を配布した。	B	B		配布し啓蒙することができた。	生徒指導の情報や連絡等を掲載した「生徒指導だより」を配布したい。	
		地域における補導活動への参加を充実する。	6回以上A　5回B　4回C　3回以下D	B	2度参加し情報収集や補導にあたった。	B			校区内の補導活動を中心に参加した。講演会、研修会への出席ができなかった。	参加回数を増やし、不審者の情報等の収集をする。	
進路指導	進路保障を本校教育の総和と捉え、その実現に努める。	生徒一人一人を大切にし、その可能性を伸ばすために基礎学力の充実に努める。また、多種類・課外講習を企画する。また、低学年からの進路指導室の利用を促進する。	低学年の生徒アンケートにおいて、進路指導室を利用したことがある　70%以上A　60%以上B　50%以上C　50%未満D	B	3年生で、ウィークデーの課外講座と土曜講習の2本立てで進路対応をしている。また、1年生向けに、進路指導室の使い方に関する説明会を企画している。	B	B	B	コース選択の際に大学・専門学校関係の資料を調べに来た1年生がいたが、低学年生の利用は低調である。ただ、進路指導室にいる教員に学習の質問に来る生徒は増えてきた。	進路指導室が質問受付室になるのは趣旨に反するが、それにより敷居が低くなるのなら、そのための条件整備も考えたい。	キャリア教育等を通して、自分の将来について、早くから十分に考えさせ、進路実現に取り組ませる必要がある。
		GS・HR等を活用して「進路調べ」をし、正しい職業感を育成し、進路実現に役立てる。	生徒アンケートにおいて、進路HRが役に立った70%以上A　60%以上B　50%以上C　50%未満D	B	2年生で大学見学会を実施した。1年生では、大学調べの前段階として、資料を用いて大学入試のシステムについての学習をしている。	B			従来からの資料を用いた指導は実施できたが、低学年での大学見学会を定例化することができなかった。企画段階から日程的な問題、費用的な問題を含めて工夫を要する。	新規の学校行事を立ち上げるには、さまざまな工夫が必要である。部内の意見をとりまとめ、再度提案できる環境を作りたい。	
	進路情報を充実する。	「進路の手引き」を全生徒に配布して有効活用を図る。	生徒アンケートにおいて、進路の手引きが役に立った　70%以上A　60%以上B　50%以上C　50%未満D	B	「進路の手引き」を作成して6月初頭に配布した。3年生では、これを教材としたLHRを展開、2年生ではさらに独自資料を配付してのHRを展開した。	B	B		各種資料は取りそろえているが、進路指導室に何があるのかを始め、本校の進路指導の方針について、保護者に対する案内がうまくいっていない。	生徒だけでなく、保護者にも進路指導室をご利用いただけるような環境作りを心がけたい。	
		進路指導室内の資料を整理し、効率よく検索できるようにする。	生徒アンケートにおいて、資料が利用しやすかった70%以上A　60%以上B　50%以上C　50%未満D	B	従来からの入試過去問題集の他に、職員、生徒からの要望に応えて、面接・小論文対策の資料・参考書などを順次増備している。	B			職員室に置いた各種問題集は、教科担当者により有効に利用できたという報告を得ている。ただ、進路指導室の資料の管理は今一つうまくいっていない。	職員のニーズを調査し、職員室の進路関係の棚に置く資料の拡充整備を考えたい。	
人権教育	人権意識を高め、行動できる生徒を育てる。	月１回、人権教育HR時間を確保する。	月1回A　月0.8回B　月0.6回C　月0.4回以下D	A	1学期中においては、人権教育HRを月１回、確保することができた	B	A		人権教育HRの月１回実施を目指したが、インフルエンザの影響で実施できなかったクラスもあった。	突発的なことが起こっても、日程の調整や別の企画を提示するなどして、人権教育HRを確保していきたい。	「かざぐるま」実習を一つの核として、様々な人権学習を実施することが重要である。
	ともに支え合う「なかま集団」づくりを行う。	1学期に、各クラスで「なかまづくり」のHRを実施する。	生徒アンケートにおいて、充実したHRとなった70%以上A　60%以上B　50%以上C　50%未満D	A	多くのクラスで、充実した「なかまづくり」のHRを実施できた。	A			各クラスで「なかまづくり」のHRが意欲的に取り組まれた。とくに、1学年ではインターネットの問題も取り上げられた。	「なかまづくり」を含め、新たな教材を提示できるよう多くの研修会等に参加する。	
	地域社会における人権の確立に参加する。	“かざぐるま”との交流（見学実習）を、1年各クラス年1回実施する。また、行事における交流を行う。	生徒アンケートにおいて、充実した交流となった70%以上A　60%以上B　50%以上C　50%未満D	A	1年生の全クラスで“かざぐるま”見学実習が実施でき、生徒の感想も「よかった」というものが多かった。	A			1年の全クラスが実施した“かざぐるま”見学実習や人権委員を中心に行われた文化祭の展示とバザーを通して、交流が深まった。	見学実習や交流の他に、学校として「かざぐるままつり」を応援するなど地域におけるボランティア活動にも力を入れている。	
教育相談	来談者の心の安定と自己肯定感の強化	相談室の常時オープン・常駐体制の維持	相談室を利用する生徒及び保護者の満足度。90%以上A　80%以上B　70%以上C　70%未満D	A	利用者の心の安静と再活性化の手助けをしている。	A			再起場所として機能したが、担当者の心身の負担大。	教育相談部を設置し、関係分掌と協働する。	

平成21年度　学校評価総括表(その4)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)					
				自己評価	進捗状況	自己評価			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析) 及び改善方策
保健体育	生徒の体力増進を図る。	体育系クラブ入部率65%以上とする。	65%以上A　50%以上B　45%以上C　45%未満D	B	一学期末の加入状況は、1年60%、2年55%、3年46%でトータルでは54%である。	B	B	B	二学期末の加入状況は、1年生58%、2年生51%で、トータルでは54．5%である。特に2年生の2学期の退部者が多くみられる。3年生まで継続できる取り組みがどのクラブにおいても必要である。	3年生まで継続できる取り組みの工夫を更に進める。	体力低下、運動能力低下が気になる。3年間を見通した計画的な取り組みを期待する。
		スポーツテストの結果を活用し、体力向上を図り、標準偏差3ポイント向上を目指す。	3ポイント以上A　0ポイント以上B　－2ポイント以上C　－2ポイント未満D	B	2年男子＋1.9、3年男子＋0.4、2年女子＋0.8、3年女子－1.4	B			体力の向上は1年から2年においては、顕著にみられるが、2年から3年の女子においては、マイナスである。スポーツテストに取り組む姿勢とともに、2年時の授業内容を工夫する必要がある。	授業内容の工夫を更に図る。	
	健康管理の意識を高める。	再検査受診率の向上を目指す。	80%以上A　55%以上B　30%以上C　30%未満D	c	検診項目によってバラつきがある。内科100%、尿検査44%、眼科20%、歯科13%。	B			再検査受診率の平均は53.7%であった。歯科検診は生徒アンケートにより確認した結果、前年度と比較して受診率の向上がみられた。	疾病異常についての関心を高めるために、指導資料等の充実、工夫を図る。	
	食育の意識を高める。	朝食の摂取率の向上を目指す。	95%以上A　75%以上B　50%以上C　50%未満D	B	毎日摂取する生徒は91%であり、週に2～3回しか食べない，全く食べない生徒に朝食摂取の意義を認識させる	B			朝食摂取の更なる向上は見られないが、アンケート結果を「食育だより」として配付し、生徒の意識付けにつなげた	朝食以外の食生活にも目をむけ食育指導に取り組む	
環境整備	「生活の場」の美化につとめ、清潔で安全で美しい環境をつくる。	日々の清掃・美化活動を徹底する。	生徒アンケートにおいて、充実した清掃・美化活動を実施できた　60%以上A　50%以上B　40%以上C　40%未満D	A	お二人の熱心に清掃されている姿に生徒は感化を受けているようで、「ゴミをしない」心が芽生えている。	A		A	トイレの使い方に少々問題あり、と思われることがあったが、総じて、所期の目標を達成することができた。	清掃活動の徹底と美化意識の更なる向上を図る。	地域として、通学路清掃等の取り組みに感謝している。
		通学路清掃等のボランティア活動を行う。	美化委員に加え、有志の参加数が前年比　10%以上増A　5%以上増B　同程度C　減D	A	前回同様、体育クラブの生徒が多数参加してくれた。	A			2学期は諸般の事情で、通学路清掃を実施することができなかった。	3月4日に実施予定。	
特別活動	生徒会活動の活性化を図る。	各種委員会それぞれが、必要に応じた活動をする。	ほぼ全ての委員会の継続的活動A　断続的活動B　約半数の継続的活動C　半数以下の断続的活動D	C	委員会により活動頻度に差がある。	C		B	活動頻度にこそある程度の差はあったものの、生徒の前向きな姿も見られた。活動内容を充実させる工夫は必要である。	生徒がやらされるのではなく、やる気を持って前向きに参加できる活動を各顧問がアドバイスする。	卒業までに社会人としての力を身につけさせるためにも、生徒主体の活動が重要である。
	文化祭を充実させる。	文化祭実行委員会を立ち上げ、文化祭を活性化する。	アンケートで「楽しかった」の回答が80%以上A　60%以上B　40%以上C　40%未満D	B	アンケートの結果、「楽しかった」は64．5%だった。	B			学年により満足度に違いはあったものの、まずまずの結果は得られた。ただし昨年度よりも数値が下がっている(昨年度は78.2%)のも事実である。発表内容等をさらに工夫し、もっと多くの生徒のやる気を引き出すことが課題である。	学校(先生)側のアドバイスを生かしつつ、文化祭実行委員会がもっと前面に出る文化祭運営。生徒の失敗を恐れず任せてみる等、学校(先生)側が生徒の活動を大きく見守る。	
教育情報	調査広報委員会の活用	アンケートを実施・分析し、学校評価の資料とする。	実施回数及びその充実度　前年比10%以上増A　5%以上増B　同程度C　5%以上減D	C	昨年どおりの実施内容・回数で進んでいる。	C		B	授業アンケート2回・生徒アンケート3回・保護者アンケート1回の計6回実施した。	次年度も今年度同様に実施していきたい。	ホームページが昨年よりもかなり充実してきている。一層の発展が望まれる。
	学校からの情報発信に努める。	ホームページを定期的に更新し、最新情報を発信する。	ホームページの更新　毎週A　月2回程度B　月1回C　学期2回程度以下D	A	平均して週に一回以上のペースで更新を行っている。	A			中間期と同様に週に一回以上の更新をおこなった。次年度はコンテンツを充実させ更新回数を更に増やしたい。	来年度は、評価指標のレベルを引き上げて臨みます。	
	生徒の読書活動を推進する。	図書室利用を活発にする。	図書貸し出し冊数　前年比8%以上増A　3%以上増B　同程度C　3%以上減D	A	昨年度比13.7%(185冊)の上昇。	B			総貸出し冊数は、昨年度より微増し約2100冊。ただし、10月以降図書の貸し出し冊数減少傾向にある。	年間を通して図書室が活用されるようさらに広報活動に力を入れていきたい。	